

各 位

クラシエホールディングス株式会社
代表取締役 会長執行役員 中嶋章義

年頭挨拶

～「クラシエ」として、初の新年を迎えて～

新年明けましておめでとうございます。「クラシエ」に変わって、初めての新年を迎えました。

今年の干支は、「子」(鼠)です。ねずみは、一生伸び続ける門歯をもつため、常に何か硬いものをかじり、前歯をすり減らす必要があります。もし、硬いものをかじらず放置しておく、前歯が口をふさぎ、食べ物を摂れず、餓死してしまいます。このことは、市場の変化と私たちの改革の関係に似ています。世の中の動きや市場の変化に対して、常に改革し、前進し続けなければ、会社は滅ぶこととなります。常に、市場や競合他社の動きに気を配り、ねずみのように、小回りを効かせ、機敏に動き続けることが大切です。

さて、昨年、当社にとって、社名変更という大変大きな出来事がありました。2月の発表以降、商品パッケージの変更、各種変更申請、看板の一新など諸準備を進め、7月1日の社名変更の日を迎えました。その後も、スポーツ大会への冠協賛や店頭での「オール クラシエキャンペーン」など、社名浸透と販促活動等、多忙な1年間を過ごしました。「カネボウ」という社名を変更することに、不安や一抹の寂しさを禁じ得なかった時期を乗り越え、昨年には新しい価値を新社名に込めようとの意識が芽生え始めました。そして、期待を胸に、社員の皆が選んだクラシエが新社名に決定しました。そして、7月に、晴れて新社名「クラシエ」のもとで、スタートを切ったのであります。今や、新社名は多くの方に受け入れられ、市場に浸透されつつあると実感しております。

その他の面でも、この1年、大きな変化と前進がありました。長年、当社の課題であった全社情報システムを一新することを決定しました。中核3事業を擁するクラシエグループとして統一した情報システムを構築し、この秋から本格稼働を予定しています。また、人事制度を大幅に改定し、この1月からその運用が開始されます。激動の1年を乗り越えた皆に感謝しつつ、次の新たな課題解決に向けて、是非、取り組んでいただきたいことを、3つ要請いたします。

1. 新社名「クラシエ」の更なる浸透

新社名「クラシエ」の更なる浸透を図り、「クラシエ」が何を、どのような会社かを明確に打ち出すことです。3事業が共通に持つモノづくりへのこだわりや、各事業が独自に持つ尖った部分を踏まえて、その集合体のクラシエという会社のあり方を世に問うときです。社名を変更して半年が経過しました。今年こそが正念場です。クラシエの更なる浸透、及びその価値についての明確なメッセージ発信のために、全社員が努力を払わねばなりません。

2. 業務改革を推進

全社情報システムの再構築と連動して、業務改革の推進や内部統制システムの構築・強化を図ることです。従来の常識や慣習にとらわれず、部門の壁を取り払い、更なる「見える化」を通して業務の改革を推進することを切望いたします。社内のあらゆる部門・部署間で、事業の枠をこえたコミュニケーションを通して、取り組むことが必要です。

3. 先行き不透明感のある経済状況の中、原点に回帰

昨年来のサブプライム問題を発端とする金融不安、原油価格の高騰、為替の変動などによる日本経済への影響が懸念されます。当社にとっては、製品の原料やパッケージなどの値上げ圧力が益々高まっています。このような不透明な時期であればこそ、メーカーとしての原点、つまり「顧客」に回帰することが重要です。研究・生産・営業・管理において、あらゆる発想の視点を顧客に置き、考えることが必要です。そして、顧客のために、原価率の改善や営業生産性の更なる向上について、知恵を絞っていただきたい、ということでもあります。

この1年、多くの予期せぬ困難にも遭遇するでしょう。仕事には厳しく、あらゆる課題に対して、徹底的に議論することは勿論ですが、クラシエの仲間同士、「明るく、楽しく」共に、この1年、前進しましょう。

以 上